鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化に向けた検討
答申

鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会

令和2年3月

はじめに

鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会は、人口減少や少子高齢化が進むとともに技術革新等により社会環境や人々のライフスタイルが急速に変化しつつある中で、将来の社会環境の変化に柔軟に対応し人生 100 年時代における新たなライフスタイルを提案できるまちづくりの実現に向け、まちづくりのコンセプトの具体化や土地利用計画の再点検等を行うことを目的に、平成 30 年 10 月に設置されました。

深沢地区のまちづくりでは、これまで「ウェルネス」をテーマとして検討を進めてきました。本委員会では、住民や市民の QOL(クオリティ・オブ・ライフ)の向上や人を中心としたまちづくりが強く求められる現代にあって、この「ウェルネス」を具現化するために、「歩く」ことに着目して議論を進めてきました。歩きやすいまち、ウォーカブルなまちを実現することで、深沢地区がこころとからだの健康が育まれるまちとなることを期待しています。

また、ウォーカブルなまちづくりを進めることで、人々の交流が生まれ、新たなネットワークやコミュニティが誕生し、それがイノベーションの創造にもつながっていきます。さらに、近年の急激な技術革新の中で、IoT、ロボット、人工知能（AI)、ビッグデータといった社会の在り方に大きな影響を及ぼす新たな技術を取り入れた鎌倉市のスマートシティ構想や「Society5.0」、スーパーシティ構想といった我が国の施策とも連携した未来志向のまちづくりを進めることで、深沢地区が新しい価値、ライフスタイルや産業を発信していくまちになることを望んでいます。

現在、地球上で様々な気候変動が起き、世界各地で深刻な被害が発生しています。我が国においても、これまで経験したことのないような集中豪雨が発生し、甚大な被害をもたらすなど、気候変動は地球規模の深刻な課題となっています。深沢地区においては、自然環境やグリーンインフラに配慮し低炭素社会の実現に取り組むとともに、誰もが共生できるまちづくりを進めていくことで、あらゆる人と環境に配慮した安全・安心なまちになることを願っています。

ＳＤＧｓ未来都市である鎌倉市として、この答申を十分に活用され、深沢地区において未来を見据えたまちづくりを実現することで、人と経済・社会・環境が相互に作用し循環する、持続可能なまちの実現に繋がることを強く期待します。

鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会

委員長　佐久間　信哉

目 次

1. 深沢地区まちづくりの実現化に向けて　1

1）検討の背景 ____ 1

2）委員会設置の背景 ____ 1

3）委員会の位置付け ____ 3

4）答申の位置付け ____ 4

2. 深沢地域整備事業の経緯と課題　5

1）まちづくりの経緯 ____ 5

2）深沢地区の現況と課題 ____ 7

3. まちづくりのコンセプトの具体化　37

1）歴史的背景と「鎌倉らしさ」、「深沢らしさ」 ____ 37

2）新たな潮流 ____ 38

3）まちの将来像３つの視点 ____ 39

4. 修正土地利用計画案の再点検　41

1）基本的な考え方 ____ 41

2）修正土地利用計画（案）の課題 ____ 42

3）再点検の内容 ____ 43

5. 実現化施策　59

1）取り組みの方向性 ____ 60

2）実現化メニュー ____ 64

6. まちづくり推進体制及び実現手法　83

1）基本的な考え方 ____ 83

2）公民連携による実現、各主体の役割分担 ____ 84

3）推進体制および実現手法の枠組み（案） ____ 85

4）まちづくり推進体制（案） ____ 87

5）事業手法 ____ 95

６）民間活力の導入、民間開発の誘導方策 102

7. 防災の拠点を支えるためのまちづくりの考え方や備えるべきまちの機能等 104

１）深沢地域整備事業区域の災害想定 104

２）災害想定の考え方とその対応 125

３）災害発生時及び被災後の対応について 127

４）防災拠点としての機能強化について 128

５）まちの魅力を高める防災面での工夫について 129

8. 今後の展開と取り組むべきこと 131

１）今後の展開 131

２）取り組むべきこと 131

３）今後留意すべきこと 132

用語集

1．深沢地区まちづくりの実現化に向けて

1）検討の背景

鎌倉市は、観光都市としての特性から、昼間に一定の人口がある一方で、市内在住者は市外への通勤が多く、都心のベッドタウンとしての位置付けでしたが、平成29年に施行された働き方改革に伴い、職住近接が改めて見直されてきている中、多くの歴史的遺産や、海・山に囲まれた豊かな自然環境に恵まれたまちで働き、暮らすという新たなライフスタイルを定着させる「働くまち鎌倉」、「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」の実現が急務となりました。

これまでの鎌倉の都市構造は、歴史的遺産、観光、文化等の中心地であり、「旧鎌倉地域」と呼ばれる鎌倉駅周辺拠点と、鎌倉の北の玄関口として、商業・経済をけん引する交通結節点としての大船駅周辺拠点によって支えられてきました。

大船・藤沢駅間東海道線新駅設置が現実味を帯びる中、鎌倉の産業の集積地である深沢地域を、第３の新たな都市拠点として鎌倉の都市構造に位置付け、３つの拠点が連携することにより、持続可能な都市の発展を目指そうとしています。深沢地区においては、新たな時代の潮流ともなりつつあるAIやIoTなどの最先端テクノロジーを駆使した未来志向のまちづくりに挑み、鎌倉が抱える「人口減少と少子・高齢社会」、「防災・減災、安全・安心のまちづくり」など様々な課題への対応を図っていきたいと考えています。

2）委員会設置の背景

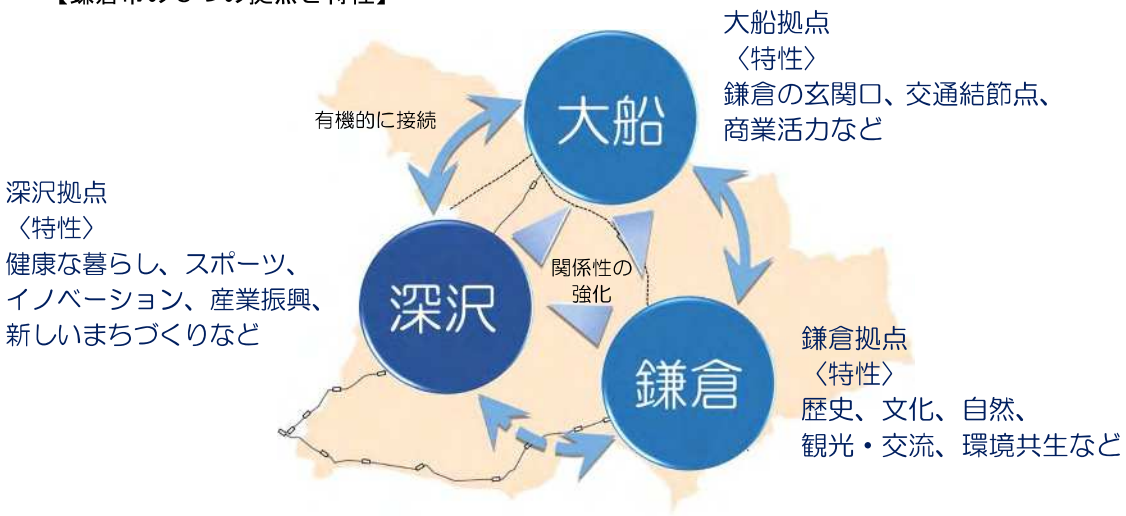
深沢地区のまちづくりは、鎌倉、大船とともに３つの拠点を形成し、この３つの拠点が地域特性を生かしながら、都市機能の集積と市民生活の向上を図る拠点として充実・発展し、相互に作用し、地域に新たな価値を創造することで、鎌倉市全体の活力や魅力を向上させることを目指し進めています。現在、平成28年10月に策定した「深沢地域整備事業の修正土地利用計画（案）」（以下「修正土地利用計画（案）」という。）を基に、令和３年度の土地区画整理事業の都市計画決定を目標に事業の実現に取り組んでいるところですが、魅力あるまちづくりの実現性を高めていくためには、まちのコンセプトの具体化やまちづくりの推進体制の検討などを進めていく必要があります。

鎌倉市は平成30年６月に、国からSDGs未来都市に選定されました。昨今の技術革新等により、社会環境や人々のライフスタイルが急速に変化している中で、深沢地区においてもSDGsの理念に基づき持続可能なまちづくりを行い、社会課題の解決を積極的に進めていく必要があり、人生100年時代における新たなライフスタイルを提案できるまちとしていくことが求められています。

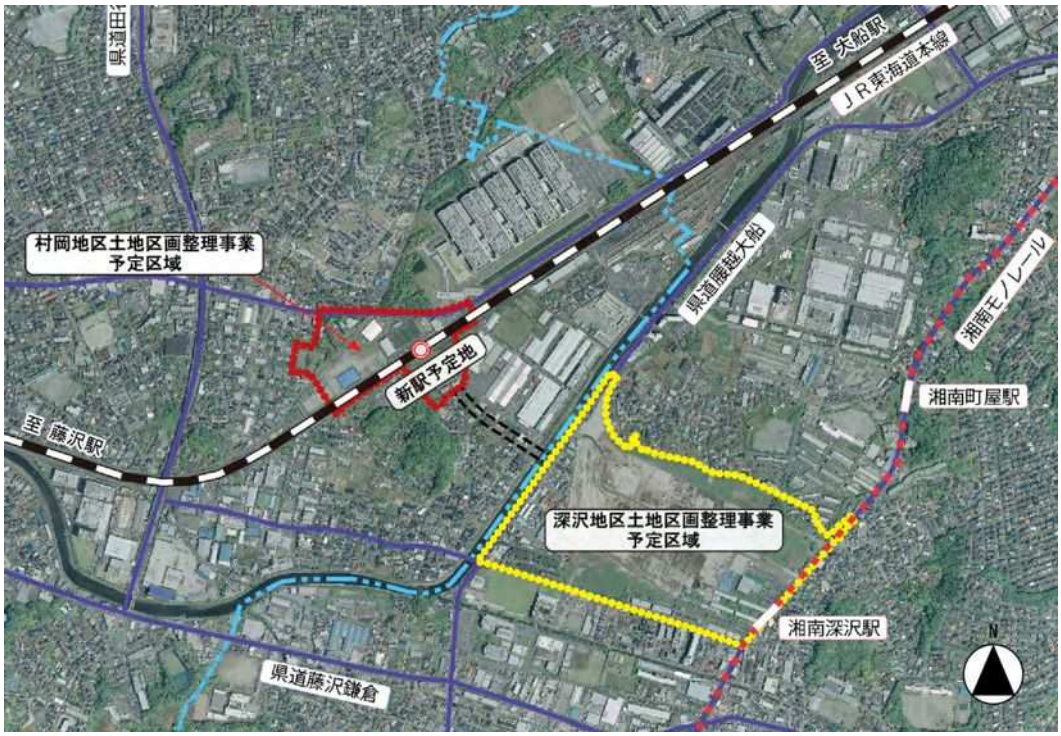
さらに、諸外国ではAI及びビックデータ等最先端ICT技術を活用することで社会のあり方を根本から変えることを目指したスマートシティづくりの動きが加速しています。この流れの中で、内閣府が「スーパーシティ構想」を打ち上げる等、日本でもICT技術等にデータ活用基盤をベースとした都市設計への取組が始まっています。鎌倉市においても、こうした流れをうまく活用して市民生活をより豊かにするためのデータ基盤並びにステークホルダーの集まるプラットフォームづくりが必要とされています。

このような背景のもと、修正土地利用計画（案）を基に深沢地区のコンセプトを実現するために、鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会（以下「委員会」という。）において、鎌倉市長から諮問された事項について必要な事項を調査及び検討することになりました。

【鎌倉市の３つの拠点と特性】



【事業区域】



【諮問の内容】

■将来の社会環境の変化等にも対応できる実現性の高いまちづくりのコンセプト及び実現化施策の検討

■まちづくりのコンセプト及び実現化施策を踏まえた修正土地利用計画（案）の再点検

■まちづくりのコンセプト、実現化施策及び土地利用計画を実現していくためのまちづくりの推進体制

さらに、本庁舎等の移転に伴い、深沢地区は防災の拠点として機能する必要があることから、

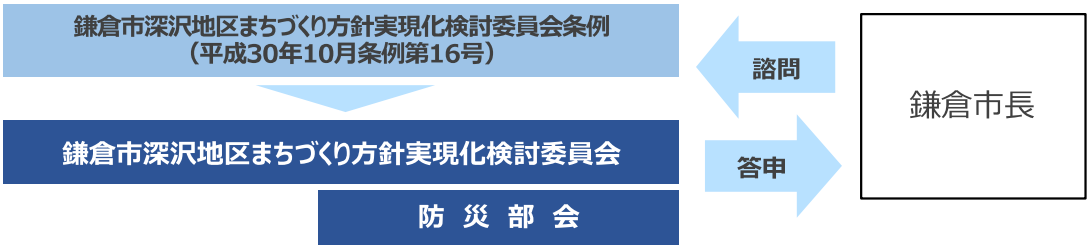
■防災の拠点を支えるためのまちづくりの考え方や備えるべきまちの機能等

3) 委員会の位置付け

鎌倉市長から諮問された事項について必要な事項を調査及び検討する組織として、鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会条例に基づき、鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会が設置されました。

また、深沢地域整備事業区域の行政施設用地に本庁舎が移転することに伴い、深沢地区が防災拠点として機能する必要があることから、委員会での防災面の検討をより専門的な見地から行うために防災部会を設置しました。

【委員会の位置付け】



【委員会名簿（50 音順）】

氏名	所属
入江 貴裕氏　【知識経験者】	株式会社日本政策投資銀行 地域企画部次長
大木 聖子氏　【学識経験者】	慶應義塾大学 環境情報学部 准教授
佐久間 信哉氏　【学識経験者】委員長	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科 特任教授
関根 正人氏　【学識経験者】	早稲田大学 理工学術院 教授
辻 秀一氏　【知識経験者】	株式会社エミネクロス 代表取締役（スポーツドクター）
中村 英夫氏　【学識経験者】	日本大学 理工学部土木工学科 教授
日髙 仁氏　【学識経験者】副委員長	関東学院大学 人間共生学部共生デザイン学科 准教授
福岡 孝則氏　【学識経験者】	東京農業大学 地域環境科学部造園科学科 准教授
増井 玲子氏　【学識経験者】	東洋大学 PPP 研究センターリサーチパートナー

【防災部会名簿（50 音順）】

（部会委員）

氏名	所属
大木 聖子氏　【学識経験者】	慶應義塾大学 環境情報学部 准教授
関根 正人氏　【学識経験者】部会長	早稲田大学 理工学術院 教授

（関係者）

氏名	所属
規矩 大義氏　【学識経験者】	関東学院大学 学長、理工学部 教授
目黒 公郎氏　【学識経験者】	東京大学 生産技術研究所 教授、都市基盤安全工学 国際研究センター長

4) 答申の位置付け

本答申は、第１回から第６回までの本委員会における議論を基に、まちづくりのコンセプト及び実現化施策の検討、修正土地利用計画（案）の再点検、まちづくりの推進体制、防災の拠点を支えるためのまちづくりの考え方や備えるべきまちの機能等の内容をとりまとめたものです。

コンセプトについては、平成 28 年に策定した修正土地利用計画（案）を基に、まちづくりのテーマである「ウェルネス」は、健康を維持・発展させることのみにとどまらず、人々のクオリティ・オブ・ライフ（生活の質）を向上させる概念であるとの議論のもと、健康づくりやスポーツなどウェルネスを具現化する第１歩として「歩く」ことに着目しました。歩くことはからだの健康だけでなく、脳の活性化やこころの健康にもつながります。また、賑わいの創出や人々の交流を促し、人々の「知」の交流がひいてはイノベーションを生み出すことにもつながるものとして、ウォーカブルなまちを目指す考え方を中心に据え、鎌倉らしさ、深沢らしさを取り入れながら、平成 28 年度以降の、鎌倉市や神奈川県、さらには国レベルなどにおける新たな潮流を加味し、「ウェルネス」を実現するための「まちの将来像３つの視点」を示しました。

実現化施策については、「まちの将来像３つの視点」に基づく「取り組みの方向性」を整理するとともに、さらにそれに基づく実現化メニュー及びその具体的内容を示しました。

修正土地利用計画（案）の再点検では、まちづくりのコンセプトを実現するための、「まちの将来像３つの視点」や、将来の社会環境の変化にも柔軟に対応できる視点などを加え、土地利用や地区内道路のあり方について、再点検を行いました。

まちづくりの推進体制については、各事業の進捗段階において、必要な推進体制を示しました。また、併せて事業手法についても整理しました。

また、防災部会において、事業区域が鎌倉市の防災拠点として必要な機能を発揮するための考え方や対応方策について検討を行い、事業区域において想定される災害に対する評価やまちづくりにおける防災対策等についてまとめ、これらの考えも取り入れ、答申としてまとめています。

【答申の主な内容】

まちづくりのコンセプト及び 実現化施策の検討	修正土地利用計画（案）の再点検
まちづくりの推進体制	防災の拠点を支えるための まちづくりの考え方や 備えるべきまちの機能等

2. 深沢地区整備事業の経緯と課題

1）まちづくりの経緯

深沢地域整備事業用地は、太平洋戦争が始まる前は田畑でしたが、JR の大船工場三十年史によると、戦争が始まると海軍が土地を接収して、横須賀海軍工廠の分工場を建設し、魚雷等の兵器製造を開始しました。太平洋戦争が終了すると、海軍が所有していた土地を国鉄が譲り受け、車両工場と車両基地を建設し、横須賀線の運行を支える重要な施設となりました。

その後、昭和 62 年（1987 年）４月の国鉄改革に伴い、JR 東日本鎌倉総合車両センター周辺に約 8.1ha、湘南貨物駅跡地に約 3.6ha の国鉄清算事業団用地が誕生しました。

鎌倉市は、国鉄清算事業団から約 8.1ha の土地の取得（平成 20 年３月取得完了）に着手するとともに、平成 16 年には、「ウェルネス」をテーマとする深沢地域の新しいまちづくり基本計画を行政計画としました。そして、平成 18 年に、東日本旅客鉄道株式会社が隣接する鎌倉総合車両センターの廃止を決めたことなどを受け、当該センター跡地約 17.0ha（社宅跡地を含む）や西側地区を含めたまちづくり構想の検討を始めました。

平成 20 年３月には、神奈川県、藤沢市、鎌倉市の３者で、検討体制を強化し、「村岡・深沢地区全体整備構想（案）」を策定し、大船・藤沢駅間東海道線新駅設置を前提とした両市一体のまちづくりの実現への取組が進むこととなり、その後、平成 27 年には、鎌倉市においてまちづくり意見交換会を開催し、市民意見を聴取し、その意見を反映するとともに、まちづくりのテーマである「ウェルネス」を具体化するため、修正土地利用計画（案）を策定しました。ここでは「ウェルネス」の概念を「健康な心身を維持・発展させる生活行動」と定義づけ、人とまちがこの概念を 共有することにより、地域で愛され続けるまちの実現を目指すこととしました。また、「ウェルネス」の概念を具体的に示すため、「ヘルシー（健康維持・増進）」、「ナチュラル（自然・歴史）」、「メッセージ（魅力発信）」、「セーフ（安全・安心）」、「ユニバーサルデザイン（誰にでも快適な デザイン ）」、「コミュニティ（交流・出会いの場）」、「アクティブ（暮らし方・働き方・楽しみ方）」という７つのキーワードを併せて定め、深沢地区において目指すべきまちの姿を描きました（この後、令和元年に実施したコンセプトの具体化作業の一環として、「メッセージ」を「クリエイティブ」に、「セーフ」を「セーフティ」にそれぞれ見直しています）。

平成 30 年３月には、鎌倉市公的不動産利活用推進方針を策定し、市役所本庁舎の移転先を深沢地域整備事業用地に決めました。また、平成 30 年 12 月には、神奈川県、藤沢市、鎌倉市が深沢・村岡両地区一体のまちづくりと新駅の実現に向けた合意をするとともに、平成 31 年１月には、村岡新駅（仮称）設置協議会から JR 東日本に対し、東海道本線への新駅設置及び整備費用の一部負担、新駅の概略設計の実施を要望しました。

一方で、同年（令和元年）５月には、神奈川県、藤沢市、鎌倉市、武田薬品工業株式会社、湘南鎌倉総合病院の５者でヘルスイノベーション最先端拠点形成にかかる連携・協力に関する覚書を締結するなど、官民あげてまちづくりの機運が高まりつつあります。

【鎌倉市深沢地域整備事業の経緯】

昭和 62 年	4 月	国鉄改革に伴い、JR 東日本鎌倉総合車両センター周辺に約 8.1ha の国鉄清算事業団用地が誕生
平成 6 年	11 月	「新しいまちづくりの基本的方向」の提言（鎌倉市深沢地域まちづくり市民懇話会）
平成 8 年	1 月	「深沢地域の新しいまちづくりの基本計画（素案）の提言（深沢まちづくり会議）
	3 月	旧国鉄清算事業団用地の取得を開始（当該年度は土地開発公社にて取得）
	12 月	市が「基本計画（案）」をまとめる
平成 15 年	9 月	「深沢まちづくり協議会」を設置し、「基本計画（案）」の見直しを開始する（大船・藤沢駅間東海道線新駅は一旦脇に置いて検討）
平成 16 年	5 月	「深沢地域の新しいまちづくり基本計画」の提言（深沢まちづくり協議会）
	9 月	「深沢地域の新しいまちづくり基本計画」を行政計画に位置付ける 「ウェルネス」がまちづくりのテーマとなる
平成 18 年	3 月	JR 鎌倉総合車両センターが廃止となる 武田薬品工業（株）湘南工場（藤沢市）が山口県光市へ移転 武田薬品が湘南工場跡地に新創薬研究所を建設することを発表
平成 19 年	6 月	西側権利者に対し土地区画整理事業実施の意向を確認し、66 名（85.7%）から理解を得る
	8 月	村岡・深沢地区全体整備構想検討委員会設置（広域のまちづくり検討） 深沢地区事業推進専門委員会設置（専門家組織）
	10 月	深沢地区事業推進協議会設置（市民、権利者、公的団体、学識経験者組織）
	11 月	深沢地区まちづくり検討部会全体会設置（権利者組織）
平成 20 年	3 月	『村岡・深沢地区全体整備構想（案）』がまとめられる（村岡・深沢地区全体整備構想検討委員会：国交省、県、藤沢市、鎌倉市、都市再生機構組織）
平成 21 年	6 月	「深沢地域の新しいまちづくりビジョン」が提言（深沢地区事業推進協議会）
平成 22 年	9 月	土地利用計画（案）策定（深沢地区事業推進専門委員会）
平成 23 年	1 月	市民を対象とした土地利用計画（案）の説明会の開催
平成 24 年	7 月	都市計画決定に向け土地利用計画（案）等についてパブリックコメントを実施
	9 月	「深沢地域国鉄跡地周辺総合整備事業と都市計画の案の説明会」を実施
平成 25 年	5 月	「鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン（案）」が提言される（鎌倉市深沢地区まちづくりガイドライン策定委員会：市民、権利者、学識経験者等組織）
	11 月	都市計画決定手続きの開始 まちづくり条例に基づく縦覧を実施
平成 26 年	1 月	都市計画公聴会の開催
	6 月	都市計画決定手続きの見合わせ
	12 月	市議会において、「鎌倉都市計画深沢地区土地区画整理事業および地区計画の見直しについて」の陳情（採択）
平成 27 年	3 月	鎌倉市公共施設再編計画の策定（総合体育館・消防本部整備の位置付け）
	4 月	新ごみ焼却施設建設候補地から、本事業の市有地が外れる
	7 月	「村岡・深沢地区総合交通戦略策定協議会」を設置し策定に向けて協議開始（湘南地区整備連絡協議会）（国交省、県、藤沢市、鎌倉市、交通管理者、交通事業者、学識経験者組織）
	8 月	市民の意見や要望を聞くため「深沢地域整備事業のまちづくり意見交換会」を開催（全 4 回開催）
平成 28 年	3 月	『村岡・深沢地区総合交通戦略』を策定（湘南地区整備連絡協議会） 『東海道本線大船駅・藤沢駅間の新駅設置実現化検討調査』結果の報告により大船・藤沢駅間東海道線新駅概算事業費の増額を確認（湘南地区整備連絡協議会）
	6 月	深沢地域整備事業の修正土地利用計画（素案）の確定、パブリックコメント実施
	10 月	「深沢地域整備事業の修正土地利用計画（案）」の策定
平成 30 年	3 月	鎌倉市公的不動産利活用推進方針の策定、市役所本庁舎の移転先を深沢地域整備事業用地に決定
	10 月	鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会設置
	12 月	神奈川県・藤沢市・鎌倉市の 3 県市で両地区一体のまちづくりと新駅の実現に向け合意し、「村岡新駅（仮称）設置協議会」を設立
平成 31 年	1 月	「村岡新駅（仮称）設置協議会」から JR 東日本に対し、東海道本線への新駅設置及び整備費用の一部負担、新駅の概略設計の実施を要望
令和元年	5 月	神奈川県、藤沢市、鎌倉市、武田薬品工業㈱、湘南鎌倉総合病院の５者でヘルスイノベーション最先端拠点形成にかかる連携・協力に関する覚書を締結
	7 月	鎌倉市深沢地区まちづくり方針実現化検討委員会中間答申

2）深沢地区の現況と課題

まちづくりのコンセプト及び実現化施策の検討や修正土地利用計画（案）の再点検の前提となる事項として、鎌倉市・深沢地区の現況・課題を整理しました。

【整理項目】

項目	内容	備考
交通	・自動車・歩行者交通の地区内及び地区周辺の現況・課題（深沢地区内、深沢地区周辺、深沢地区を含めた広域） ・公共交通の現況・課題（鉄道、バス交通）	
防災	・津波 ・洪水・浸水 ・液状化 ・土砂災害	・防災部会報告書を踏まえ整理
環境	・自然環境（緑、水） ・歴史資源	
社会 （人口）	・鎌倉市の人口等の状況 ・藤沢市の人口等の状況	
産業	・鎌倉市の産業について ・深沢地区周辺の主な企業分布について ・鎌倉駅周辺への IT 関連企業の集積 ・神奈川県における特区の状況	
健康・ スポーツ	・鎌倉市の健康 ・スポーツ	

（1）交通

①自動車・歩行者交通の地区内及び地区周辺の現況・課題

ア．深沢地区内

現在計画中の道路計画における交通上の課題は、①シンボル道路をはじめとした各種道路における歩行者と自動車の輻輳（ふくそう）のできる限りの排除、②街区間の歩行者動線の確保、交通広場機能の明確化とそれを踏まえた配置、③県道や市道からの自動車の引き込み、④村岡地区とのつながり、となっています。

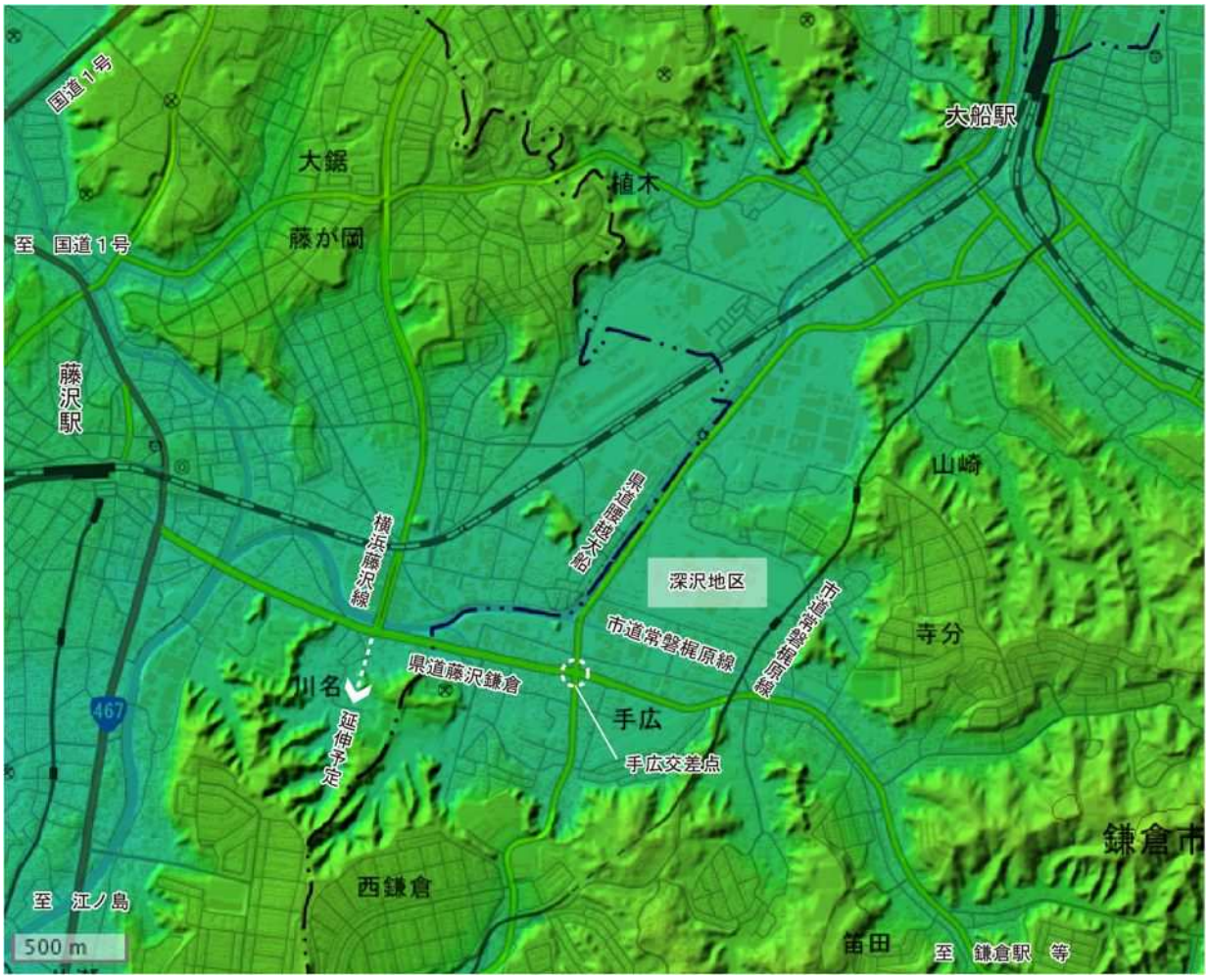
イ．深沢地区周辺

深沢地区外周道路の市道大船西鎌倉線、県道腰越大船、市道常盤梶原線は、いずれも片側１車線の交互通行であり、自動車によるアクセス性は高いですが、広域からの自動車動線としては弱いです。

深沢地区から藤沢駅方面、鎌倉駅方面へのアクセスは県道藤沢鎌倉（片側１車線）のみとなるため、大船駅方面と江ノ島方面を結ぶ県道腰越大船と県道藤沢鎌倉と交差する手広交差点は、混雑すると想定されます。

深沢地区東側は丘陵地帯であり、交通量が増加すると予想されます。

【深沢地区周辺の道路の状況】



出典：国土地理院 https://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html

（標準地図と色別標高図を重合せ、さらに加工して作成）

ウ．深沢地区を含めた広域

深沢地区周辺の道路は、国道及び駅周辺の道路を中心に混雑度が 1.0 を超えている区間が多く見受けられます。平日・休日で交通量及び混雑度にほとんど差がない状況になっています。（下図参照）

大船・藤沢駅間東海道線新駅西側では、都市計画道路横浜藤沢線の整備が進められており、これが完成すれば、鎌倉市内への通過交通の流入が減少することで、深沢地区周辺も交通量が減少すると想定されます。

【周辺道路ネットワーク・混雑状況】

出典：村岡・深沢地区総合交通戦略　資料編（平成 28 年 3 月）

【混雑度について】

1.00 以下　：道路が混雑することなく、円滑に走行できる。
1.00-1.25：道路が混雑する可能性のある時間帯が 1～2 時間あるものの、何時間も混雑が連続する可能性は低い。
1.25-1.75：ピーク時間帯はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速度的に増加する可能性が高い状態。
1.75-2.00：慢性的混雑状態。昼間 12 時間のうち混雑する時間帯が約 50%に達する。
2.00 以上　：慢性的混雑状態。昼間 12 時間のうち混雑する時間帯が約 70%に達する。

②公共交通の現況・課題

ア．鉄道

深沢地区で利用できる駅は、湘南モノレールの湘南深沢駅だけとなっており、広域からのアクセスはJR大船駅経由となり、アクセスしにくい状況です。ただし、大船・藤沢駅間東海道線新駅が完成すれば、広域からのアクセス性は高まります。

イ．バス交通

深沢地区西側の県道腰越大船に「神戸製鋼前」バス停、東側の市道大船西鎌倉線に「大船工場」バス停、南側の市道常盤梶原線に「八丁面」バス停があります。

「神戸製鋼前」バス停からは、大船駅、鎌倉駅、藤沢駅、江ノ島などに、「大船工場」バス停からは、大船駅、鎌倉駅、江ノ島などに、「八丁面」バス停からは、藤沢駅などにアクセスできます。

【バス交通について】

深沢地区 最寄のバス停	運営会社	系統	行き先
神戸製鋼前 （神鋼橋周辺）	江ノ電バス（江ノ島電鉄（株））	藤沢駅～湘南車庫（片瀬山経由）	藤沢駅南口、湘南車庫
		藤沢駅～湘南車庫（手広経由）	藤沢駅南口、湘南車庫
		藤沢駅～長島	藤沢駅南口、長島
		鎌倉駅～湘南車庫	湘南車庫、鎌倉駅東口
		藤沢駅～大船駅（手広経由）	大船駅東口交通広場、藤沢駅南口
		大船駅～江ノ島	江ノ島、大船駅東口交通広場
		大船～新鎌倉山循環	大船駅東口交通広場
		大船駅～津村	大船駅東口交通広場、津村
		津村～新鎌倉山～大船駅	大船駅東口交通広場、津村
大船工場 （湘南モノレール湘南深沢駅直近）	京浜京急バス（株）	船２	大船駅、梶原
		船３	大船駅、富士見台
		船４	大船駅、鎌倉山
		船５	大船駅（西鎌倉経由）、諏訪ヶ谷（津村経由）
		船６	大船駅、江ノ島
		船７、８、９	大船駅、鎌倉駅(東口)
八丁面 （深沢地区南側）	江ノ電バス（江ノ島電鉄（株））	教養センター循環	藤沢駅南口、教養センター
		教養センター～藤沢駅	
		藤沢駅～笛田４番	笛田４番

※一般社団法人神奈川県バス協会ホームページでの一般路線バス検索により調査

【深沢地区周辺のバス停の位置】

〔修正土地利用計画（案）（H28 年 10 月時点）〕

【修正土地利用計画（案）の課題】

シンボル道路北側と南側の安全な歩行者動線確保
・道路幅員が20mのシンボル道路による北側と南側の分断感の改善が必要である。
・シンボル道路沿道の施設への自動車の出入り場所との関係も踏まえた、横断位置の設定が必要である。
・横断にあたっては、可能な限り歩車分離を行い、自動者と歩行者の交錯を極力なくす必要がある。

北側住宅地との安全な歩行者動線確保
・行政施設等への自動車の出入り場所との関係も踏まえた、横断位置の設定が必要である。

行政施設等への自動車の出入り
・シンボル道路や市道での歩行者と自動車の交錯や混雑を抑制するため、駐車場の集約や自動車の左折イン左折アウトが基本となるような出入り方法の検討が必要である。

計画地への右左折レーン設置
・湘南モノレールの橋脚が市道西側にあり、支障となる可能性がある。

歩行者に配慮したシンボル道路
・歩行者に配慮した道路とするため、沿道に可能な限り駐車場入口を設けず、自動者と歩行者の交錯を極力なくす必要がある。
・車両の交錯を可能な限り生じさせることのないよう、左折イン左折アウトが基本となるような出入り方法の検討が必要である。

村岡地区からの交通アクセスとの関係
・シンボル道路は、大船・藤沢駅間東海道線新駅とのアクセスを考慮する必要がある。

工場・市場施設への自動車の出入り
・県道、市道での歩行者と自動車の交錯や混雑を抑制するとともに、商業施設等への自動車の出入りも考慮した、左折イン左折アウトが基本となるような出入り方法の検討が必要である。

商業施設等への自動車の出入り
・シンボル道路や県道、市道での歩行者と自動車の交錯や混雑を抑制するため、駐車場の集約や自動車の左折イン左折アウトが基本となるような出入り方法の検討が必要である。

都市型住宅等への自動車の出入り
・シンボル道路や２本の市道での歩行者と自動車の交錯や混雑を抑制するため、出入り口を最小限にするとともに、自動車の左折イン左折アウトが基本となるような出入り方法の検討が必要である。

交通広場機能の明確化と位置の設定
・シンボル道路と交通広場の交差部、市道とシンボル道路の交差点が近い。

〔修正土地利用計画（案）（H28 年 10 月時点）〕

（参考）深沢地区周辺の骨格的な道路網について

ア．都市計画道路横浜藤沢線

深沢地区の西側を南北に縦断しています。

現在のところ、藤沢鎌倉線以南は未整備となっており、県、横浜市及び藤沢市が協調しつつ、整備の促進を図ることとされています。

イ．市の西部を通過する骨格的な幹線道路の整備検討

大船駅周辺及び深沢地域国鉄跡地周辺の拠点整備及び海岸部の交通機能強化に対応するため、市街地環境や緑の保全、市街地の分断、沿道の修景・景観形成に配慮しつつ、海岸部から深沢地域国鉄跡地周辺を通り、高速横浜環状南線方面に抜ける骨格的な幹線道路の整備を検討します。

この道路は、海岸部や丘陵部から深沢、大船方面へのアクセス向上、鎌倉地域への自動車流入抑制といった効果を持ちます。

具体的なルートや構造については今後検討を行い、市民等に対して、その必要性・整備効果を十分説明し、合意形成を図った上で、具体的な都市計画としての手続を進めます。

【深沢地区周辺の骨格的な道路網】

出典：鎌倉市都市マスタープラン（平成 27 年 9 月）
（一部加筆）

(2) 環境

①自然環境

ア．緑

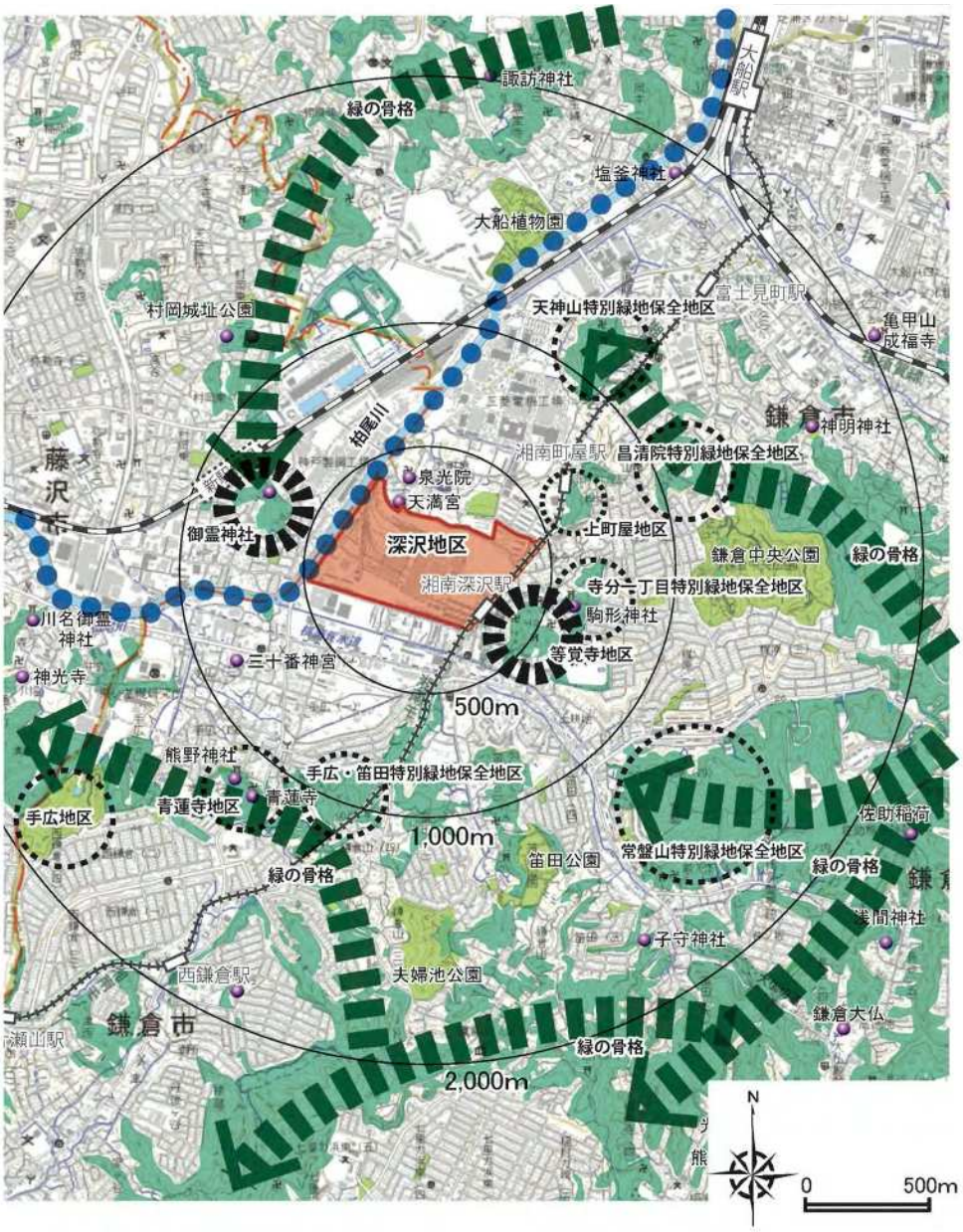
深沢地区は、緑の骨格に取り囲まれています。

事業区域は、東西の緑地に挟まれています（御霊神社、等覚寺）。

イ．水

事業区域の西側に、柏尾川が隣接しています。（事業区域の南側に、梶原川が隣接していますが、深沢地区の整備と併せて、道路機能の強化のためボックス化する予定です。）

【深沢地区を取り巻く緑と水の状況】



②歴史資源

ア．洲崎古戦場碑

1333 年（元弘３年）に新田義貞が鎌倉を攻めた時にこの地で激しく戦いました。山崎・上町屋・寺分・梶原の一帯を洲崎郷と呼んでいました。

【洲崎古戦場碑、泣塔について】

イ．泣塔

丘の上に、泣塔と呼ばれる石造の宝篋印塔（ほうきょいんとう）と、その後ろのやぐらの中に数基の五輪塔があります。

これらの石塔は、1333 年（元弘３年）に新田義貞が鎌倉を攻めた時の洲崎の合戦における戦死者の霊を慰めるために、23 回忌の 1356 年（延文元年）に建てられた供養塔であるといわれています。

泣塔は、まとまったよい形の塔であるのに加え、基礎の石にはっきりと文和５年（1356 年）の年号が刻まれており、塔そのものが文化財として大変価値のあるものです。

ウ．天満宮

平安時代の天慶年間（938～946 年）に、藤沢の村岡にいた平良文という武士が、夢のお告げで天神をまつったのがはじまりといわれています。

エ．深沢の名前の由来

江戸時代の『江島大草子（えのしまおおぞうじ）』に「鎌倉から海月（くらげ）（横浜市金沢区方面）にかけて長い湖があり、その周囲四十余里もあって、これを『深沢』と呼び、水を満々とたたえた」と書かれています。

縄文時代以前は、今の深沢から大船にかけて深い入り江があったと考えられており、『深沢』の地名は、この湖に由来しているといわれています。

(3) 社会

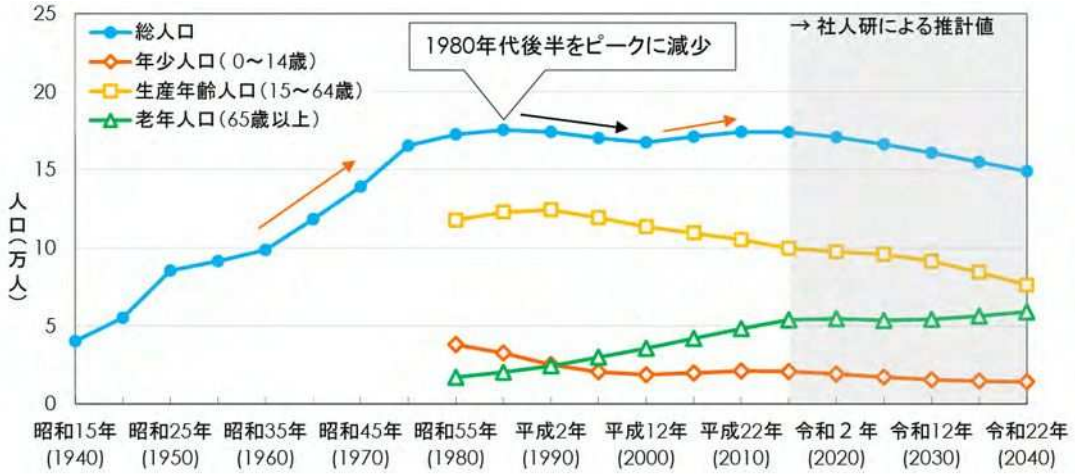
①鎌倉市の人口等の状況

ア．総人口と年齢３区分別人口の推移

鎌倉市の総人口は、国立社会保障・人口問題研究所による推計値では、平成 27（2015）年から減少することとなっています。

年齢３区分別の人口推移をみると、生産年齢人口と年少人口は減少を続けますが、老年人口は継続して増加しています。

【人口の推移】



国勢調査による実績値← →社人研による推計値　（人）

		昭和55年 (1980)	昭和60年 (1985)	平成2年 (1990)	平成7年 (1995)	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)	令和2年 (2020)	令和5年 (2025)	令和12年 (2030)	令和17年 (2035)	令和22年 (2040)
総人口（人）		172,629	175,495	174,307	170,329	167,583	171,158	174,314	174,050	170,947	166,336	160,867	154,974	148,992
年少人口	人数	37,929	32,474	24,991	20,379	18,590	19,590	20,944	20,642	19,076	17,067	15,385	14,494	14,037
（0～14歳）	割合	22.0%	18.5%	14.4%	12.0%	11.1%	11.5%	12.0%	11.9%	11.2%	10.3%	9.6%	9.4%	9.4%
生産年齢人口	人数	117,642	122,811	124,241	119,254	113,409	108,607	105,184	99,654	97,402	95,783	91,376	84,284	76,102
（15～64歳）	割合	68.2%	70.0%	71.6%	70.4%	67.7%	63.9%	60.4%	57.3%	57.0%	57.6%	56.8%	54.4%	51.1%
老年人口	人数	16,967	20,136	24,212	29,777	35,573	41,722	48,108	53,754	54,469	53,486	54,106	56,196	58,853
（65歳以上）	割合	9.8%	11.5%	14.0%	17.6%	21.2%	24.6%	27.6%	30.9%	31.9%	32.2%	33.6%	36.3%	39.5%
老年人口比率		14.4%	16.4%	19.5%	25.0%	31.4%	38.4%	45.7%	53.9%	55.9%	55.8%	59.2%	66.7%	77.3%

出典：総務省統計局 国勢調査 昭和 55（1980）年～平成 22（2010）年の総人口（総人口数は外国人・年齢不詳を含めているが、年齢３区分別人口に関しては、年齢不詳人口を含めていない。）
社人研 日本の地域別将来推計人口（平成 25（2013）年３月） 平成 27（2015）年以降の総人口

参考：鎌倉市人口ビジョン　鎌倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 28 年３月）

イ．人口の将来展望

「働くまち」、「住みたい・住み続けたいまち」鎌倉としての魅力を確立し、「出生率の向上による自然減の克服」と「転入超過の継続」が実現した場合、鎌倉市における将来人口は次のとおりとされています。

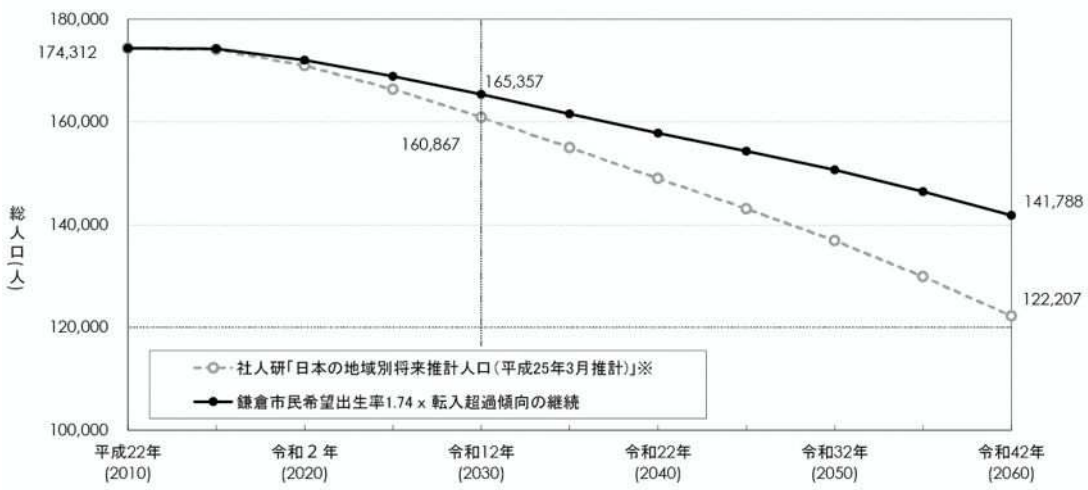
【鎌倉市の将来人口推計】

（将来展望の推計条件）

将来展望の推計条件	
合計特殊出生率	出産等に関する希望が叶えられた場合、アンケート調査より導出される「希望出生率」1.74が達成される。 ※2030 年に達成として算出
社会移動率	ここ10年間の転入超過傾向が継続し、2010年→2015年の社会移動（年に600人程度増加）率が継続して推移する。

（人口推計）

将来展望における鎌倉市の総人口	
令和 12（2030）年	165,357 人
令和 42（2060）年	141,788 人



※社人研「日本の地域別将来推計人口（平成 25（2013）年 3 月推計）」に準拠し、令和 22（2040）年以降の出生率、社会移動率を一定として算出した。

参考：鎌倉市人口ビジョン　鎌倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 28 年 3 月）

ウ．市内各地域の人口構成

深沢地域は、全市と比較して生産年齢人口の割合は低く、年少人口と老年人口の割合は高くなっています。各割合は、その他の地域と比較して、大きく突出したものはありません。

【市内各地域の人口】

		深沢地域	鎌倉地域	腰越地域	大船地域	玉縄地域	全市
0-14歳	人数	4,154	5,469	2,584	5,306	3,042	20,555
	割合	12.1%	11.4%	10.3%	12.0%	12.1%	11.7%
15-64歳	人数	19,361	26,610	13,862	26,910	15,028	101,771
	割合	56.5%	55.7%	55.4%	61.0%	59.5%	57.7%
65歳以上	人数	10,732	15,722	8,591	11,882	7,168	54,095
	割合	31.3%	32.9%	34.3%	26.9%	28.4%	30.7%

出典：平成 30 年 9 月末日現在の地域別・町丁字別の年齢別人口（住民基本台帳）、位置図（いずれも鎌倉市ホームページ）

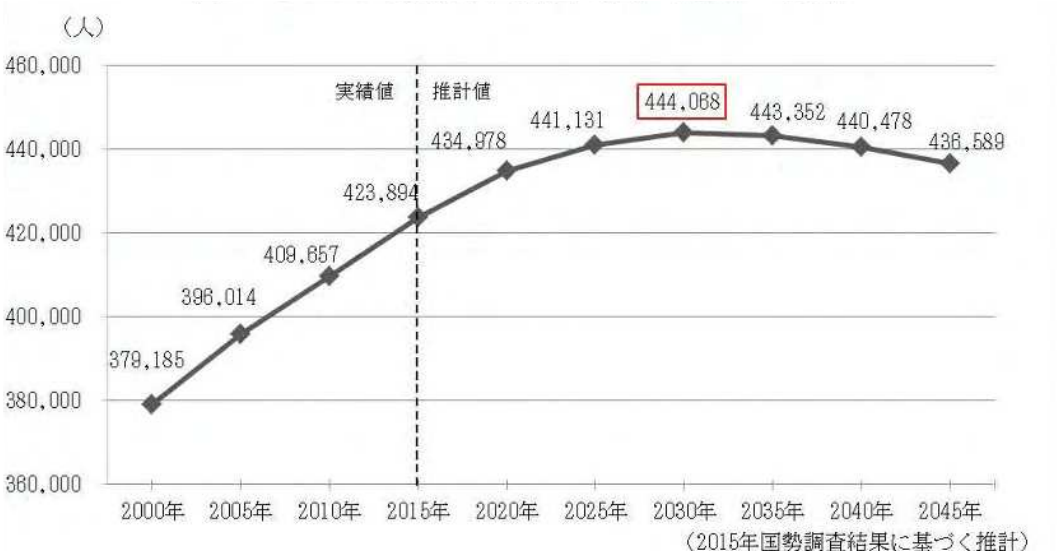
②藤沢市の人口等の状況

ア．総人口と年齢３区分別人口の推移

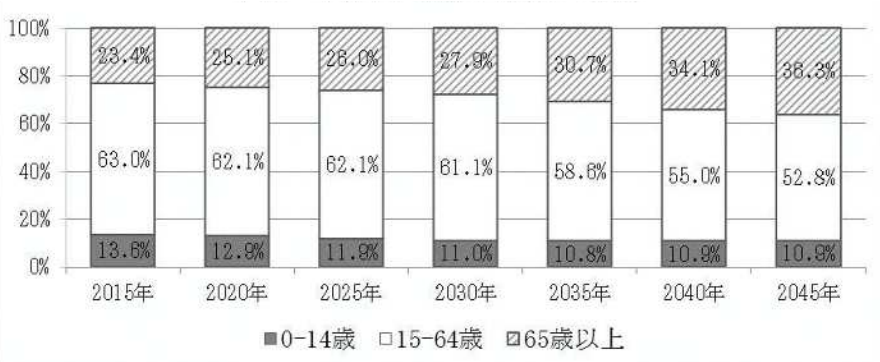
藤沢市の総人口は、「藤沢市将来人口推計について」では、2020 年から減少することとなっています。

年齢３区分別の人口推移をみると、生産年齢人口と年少人口は減少を続けますが、老年人口は継続して増加しています。

【2017 年度藤沢市将来人口推計（総人口の推計）】



【年齢３区分別の構成比の推移】



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0-14歳	57,642	55,896	52,394	48,847	47,688	47,796	47,699
15-64歳	267,015	270,094	273,949	271,470	259,683	242,297	230,503
65歳以上	99,237	108,988	114,788	123,751	135,981	150,385	158,387
合計	423,894	434,978	441,131	444,068	443,352	440,478	436,589

出典：藤沢市将来人口推計（平成 30 年 4 月）

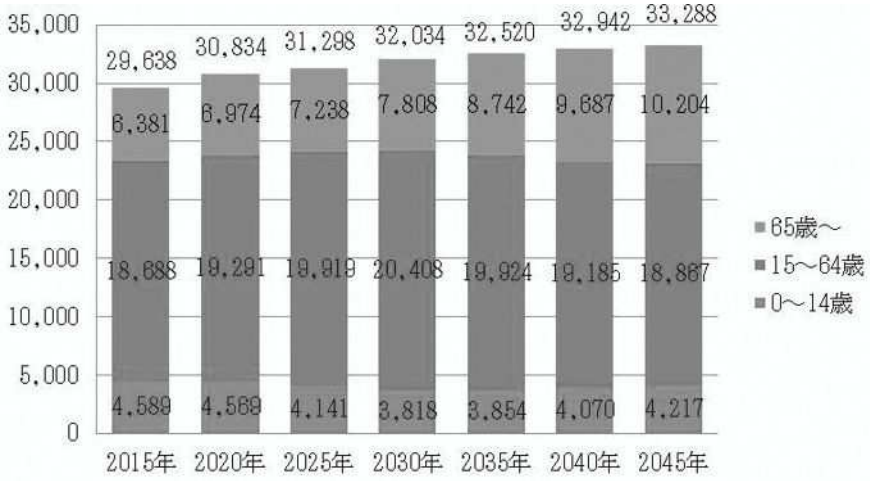
イ．村岡地区の人口推計

藤沢市の総人口は、「藤沢市将来人口推計について」では、2045 年まで増加することとなっています。

年齢３区分別の人口推移をみると、生産年齢人口は 2030 年まで増加しそれ以降 2045 年まで減少、年少人口は 2030 年まで減少し、それ以降 2045 年までは増加、老年人口は継続して増加となっています。

地区別（全 13 地区）で見ると、2045 年まで人口が増加するのは、村岡地区の他、藤沢地区、明治地区、六会地区、遠藤地区の４地区となっています。

【村岡地区の年齢３区分別の構成比の推移】



	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
0～14歳	15.5%	14.8%	13.2%	11.9%	11.9%	12.4%	12.7%
15～64歳	63.1%	62.6%	63.6%	63.7%	61.3%	58.2%	56.7%
65歳～	21.5%	22.6%	23.1%	24.4%	26.9%	29.4%	30.7%

出典：藤沢市将来人口推計（平成 30 年 4 月）

【2045 年まで人口が増加する５地区（赤枠）】

(4) 産業

①鎌倉市の産業について

（鎌倉市人口ビジョン　鎌倉市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成 28 年 3 月より））

ア．民営事業所の産業別の事業所数及び従業者数と増減数

平成 21（2009）年と平成 26（2014）年の事業所及び従業者の増減数を比べると、市全体では、事業所数で-325 件、従業者数で-1,967 人と減少傾向となっています。

全体的にマイナスの変化をしている中、産業別にみると、「P　医療，福祉」で事業所が 79 件、従業者で 2,271 人の増加となっています。また、「O　教育，学習支援業」では、事業所が 22 件、従業者が 518 人の増加となっています。抱える従業者数をみると、「I　卸売業，小売業」「P　医療，福祉」「M　宿泊業，飲食サービス業」「E　製造業」が多くを占めています。

【鎌倉市における民営事業所の産業別の事業所数及び従業者数と増減数】

	平成21年（2009）		平成26年（2014）		増減数（21年→26年）	
産業大分類	事業所数	従業者数（人）	事業所数	従業者数（人）	事業所数	従業者数（人）
全産業	7,764	70,916	7,439	68,949	-325	-1,967
A～B 農林漁業	8	34	12	69	4	35
C 鉱業，採石業，砂利採取業	0	0	0	0	0	0
D 建設業	525	3,162	455	1,992	-70	-1,170
E 製造業	256	8,807	218	7,964	-38	-843
F 電気・ガス・熱供給・水道業	2	135	2	123	0	-12
G 情報通信業	154	4,567	136	3,382	-18	-1,185
H 運輸業，郵便業	83	3,065	82	2,483	-1	-582
I 卸売業，小売業	2,144	14,269	2,050	14,033	-94	-236
J 金融業，保険業	100	1,202	92	1,309	-8	107
K 不動産業，物品賃貸業	866	2,731	779	2,359	-87	-372
L 学術研究，専門・技術サービス業	420	4,133	367	4,316	-53	183
M 宿泊業，飲食サービス業	1,282	9,948	1,257	9,746	-25	-202
N 生活関連サービス業，娯楽業	578	3,173	582	3,018	4	-155
O 教育，学習支援業	336	3,168	358	3,686	22	518
P 医療，福祉	559	9,233	638	11,504	79	2,271
Q 複合サービス事業	27	271	26	408	-1	137
R サービス業（他に分類されないもの）	424	3,018	385	2,557	-39	-461

出典：総務省統計局経済センサス（平成 21（2009）年・平成 26（2014）年）

イ．鎌倉市の雇用や就労等の状況

就業者数における産業別特化係数*（1.0 を超えると全国平均よりも雇用の場が提供されている）を比較すると、男性では「G 情報通信業」が際立って高い傾向にあります。続いて、男女ともに「L 学術研究、専門・技術サービス業」が高い数値を示しており、次いで「M 宿泊業、飲食サービス業」が高くなっています。

「M 宿泊業、飲食サービス業」の産業別特化係数が上位になっている比較都市は、他に藤沢市〈女性〉・小田原市〈男女〉のみであり、観光地としての特徴がみられます。

【鎌倉市における産業別の産業別特化係】

	鎌倉市	
	男	女
A 農業，林業	0.24	0.12
B 漁業	0.38	0.41
C 鉱業，採石業，砂利採取業	0.00	0.00
D 建設業	0.68	0.63
E 製造業	0.97	0.63
F 電気・ガス・熱供給・水道業	0.93	0.52
G 情報通信業	2.20	1.27
H 運輸業，郵便業	0.86	0.52
I 卸売業，小売業	0.82	1.07
J 金融業，保険業	0.63	0.82
K 不動産業，物品賃貸業	1.47	1.53
L 学術研究，専門・技術サービス業	2.11	1.56
M 宿泊業，飲食サービス業	1.60	1.45
N 生活関連サービス業，娯楽業	1.12	0.89
O 教育，学習支援業	1.29	1.42
P 医療，福祉	1.40	1.10
Q 複合サービス事業	0.61	0.72
R サービス業（他に分類されないもの）	0.95	0.81
S 公務（他に分類されるものを除く）	0.89	1.43
T 分類不能の産業	0.72	0.81

＊ 産業別特化係数：Ｘ産業の特化係数＝当該地方公共団体のＸ産業の就業者比率÷全国のＸ産業の就業者比率。（地方人口ビジョンの策定のための手引き 平成 27（2015）年 1 月内閣府地方創生推進室）

出典：総務省統計局国勢調査（平成 22（2010）年）

②深沢地区周辺の主な企業分布について

深沢地区周辺には、グローバル企業の関係機関が立地し、近年機能強化を行う関係機関もあります。

武田薬品工業による湘南アイパークの開所、湘南鎌倉総合病院の先端医療センターの建設、湘南鎌倉医療大学の開学によって、ヘルスケアや医療機能の集積が進んでいます。

【深沢地区周辺の主な企業分布】

武田薬品工業（藤沢市にまたがって立地）
- 昭和 38 年開設の湘南工場を平成 18 年に閉鎖、その後平成 23 年に工場跡地に湘南研究所を開設
- 平成 30 年 4 月にヘルスケアにおけるオープンイノベーションを推進するため、湘南ヘルスイノベーションパーク（湘南アイパーク）を開所、2023 年度までに同施設に 200 社を誘致する目標を掲げている

湘南鎌倉総合病院
- 医療法人沖縄徳洲会が運営
- 病床数 619 床の鎌倉市内最大の病院
- 救命救急センター指定病院、神奈川県災害協力病院、神奈川県 DMAT-L 指定病院等の指定を受ける
- 隣接する武田薬品工業湘南研究所の敷地を一部取得し、2021 年末に先端医療センターを建設予定

神戸製鋼所（藤沢市に立地）
- 現在は藤沢事業所になっている
- 昭和 36 年に藤沢工場として開設
- 溶接材料において国内でトップシェアを誇る溶接事業部門の研究開発拠点

中外製薬
- 鎌倉研究所が立地
- 2022 年に横浜市戸塚区に先端的研究開発拠点新設予定

三菱電機
- 鎌倉製作所が立地
- 主な業務内容は、人工衛星、宇宙用輸送システム等
- 人工衛星の開発・製造など宇宙システム事業を強化するため、人工衛星の組み立てから試験までを行う「新衛星生産棟」を建設

湘南鎌倉医療大学
- 2020 年 4 月に開学
- 看護学部看護学科（入学定員 100 名）を設置
- 学校法人徳洲会が運営

③鎌倉駅周辺への IT 関連企業の集積

鎌倉市に本社を置く面白法人カヤックをはじめとする IT 関連企業が鎌倉地域に集積しています。

面白法人カヤックは、地域社会への取り組みとして、「カマコン」（地元 IT 関連企業等による地域活性化の活動）を展開し、有限責任事業組合（LLP）を 2013 年春に設立しました（会員企業は平成 26 年 10 月時点で 21 社、個人会員は 66 人）。

「カマコン」から、鎌倉をよりよくするための活動に絞って、インターネット経由で小口資金を集める、クラウドファンディングサイト「iikuni（いいくに）」が生まれ、これをきっかけに起業する「エコシステム」も生まれました。

このような状況にありますが、オフィスビルが少なく、開発する土地も限られていることから、オフィスビルの不足が課題となっています。

【鎌倉地域における IT 関連企業の集積】

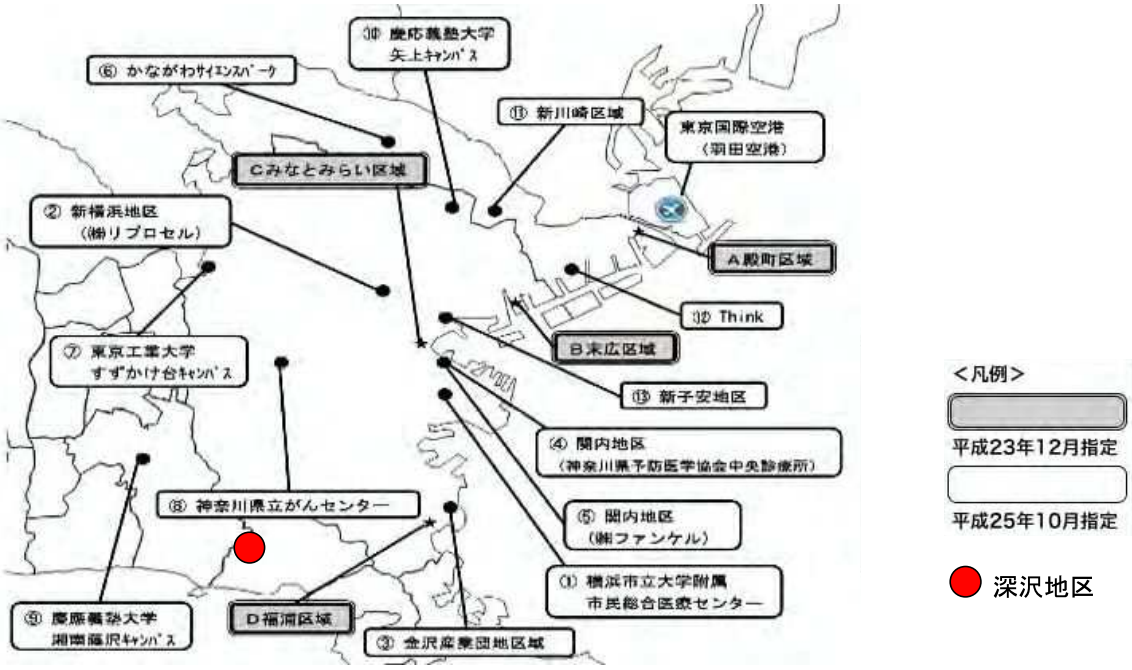
出典：日本経済新聞（平成 27 年 1 月 5 日）https://www.nikkei.com/article/DGXMZO81723040Y5A100C1X11000/

④神奈川県における特区の状況

鎌倉市は、京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区、さがみロボット産業特区の中央に位置するとともに、京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区の 17 拠点に内包されるような場所に位置しています。

【鎌倉市深沢地区と京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区、さがみロボット産業特区との位置】

【鎌倉市深沢地区と京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区に現在指定されている 17 拠点】



(5) 健康・スポーツ

①鎌倉市の健康

ア．平均寿命と健康寿命

鎌倉市の平均寿命は、男性が 84.84 年、女性が 89.74 年で、県内でも上位になっています。

鎌倉市の健康寿命は、男性が 83.16 年、女性が 85.97 年です。

平均寿命と健康寿命の差（日常生活における不健康な期間）は、男性が 1.67 年、女性が 3.78 年となっています。

【鎌倉市の平均寿命と健康寿命】

		平均寿命	健康寿命	平均寿命−健康寿命
鎌倉市	男性	84.84	83.16	1.67
	女性	89.74	85.97	3.78
神奈川県	男性	84.08	82.34	1.73
	女性	88.92	85.31	3.61
全国※	男性	79.55	70.42	9.13
	女性	86.30	73.62	12.68

※健康日本 21（第 2 次）で公表されているもの

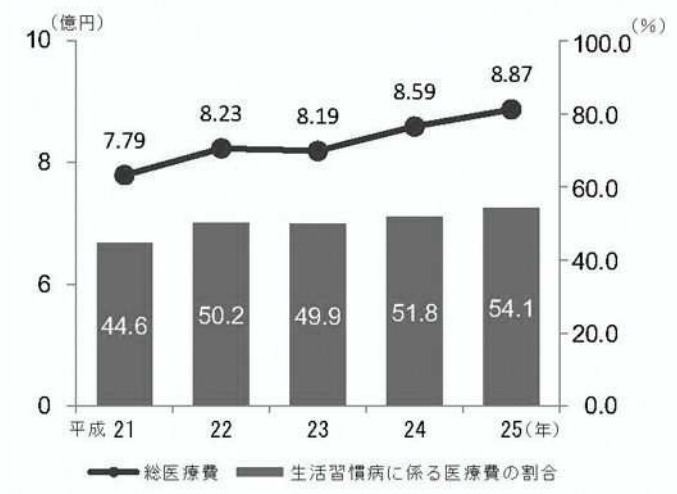
出典：鎌倉市健康づくり計画（平成 28 年 3 月））

イ．総医療費と生活習慣病に係る医療費の割合

鎌倉市国民健康保険被保険者の総医療費は、年々、増加しており、平成 25 年（５月診療分）では約８億９千万円となっています。

そのうち、生活習慣病に係る医療費は約半分を占めており、その割合も増加傾向にあります。高齢者人口の増加に伴って、今後もさらに増加することが予測されています。

【鎌倉市の総医療費と生活習慣病に係る医療費の割合】



出典：鎌倉市健康づくり計画（平成 28 年 3 月））

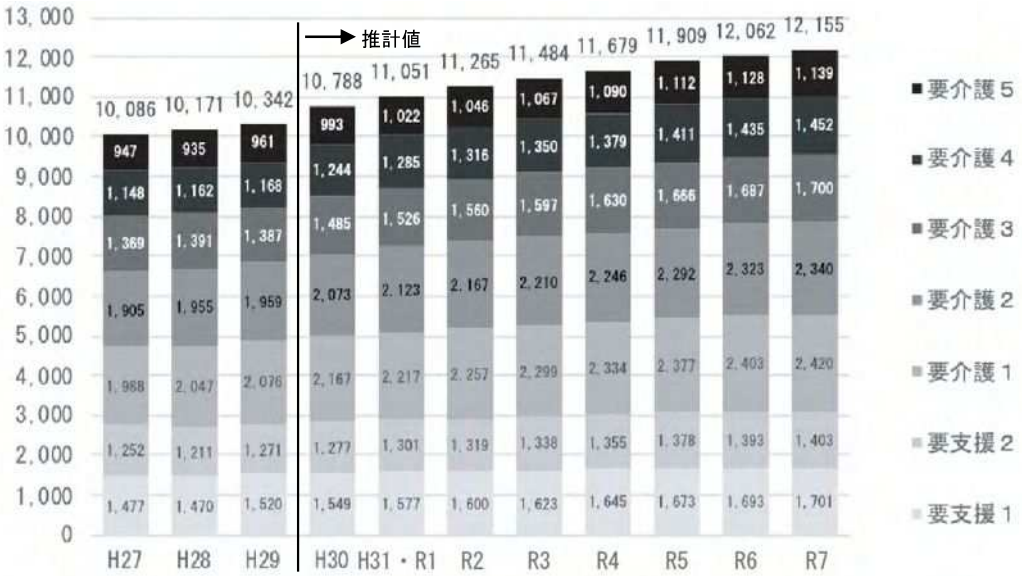
ウ．介護が必要な高齢者の将来予測

（平成 29（2017）年度）→令和 7（2025）年度の比較）

要支援・要介護は、10,342 人から 12,155 人となり、約 18%増加することとなっています。

全面的な介護が必要とされる要介護３以上は、3,516 人から 4,291 人となり、約 22%増加することとなっています。

【鎌倉市の総医療費と生活習慣病に係る医療費の割合】

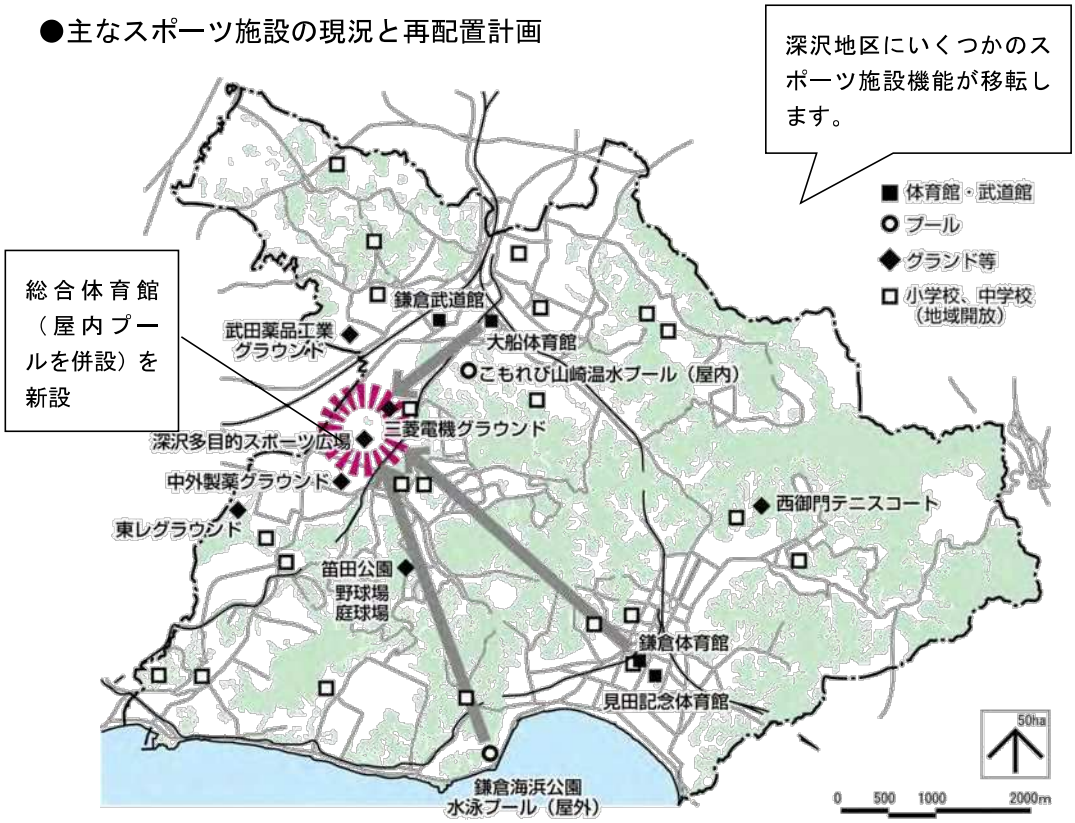


参考：鎌倉市高齢者保健福祉計画（平成 30 年度～令和 2 年度）（平成 30 年 3 月）

②スポーツ

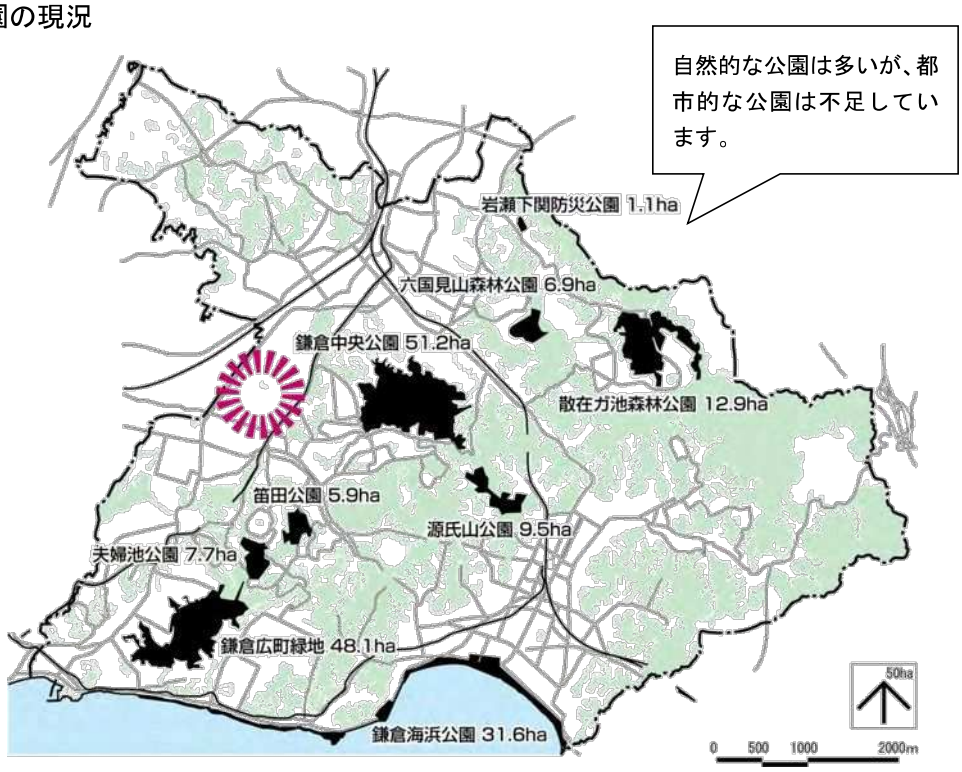
ア．スポーツ施設・公園について

●主なスポーツ施設の現況と再配置計画



（鎌倉市公共施設再編計画等より）

●公園の現況

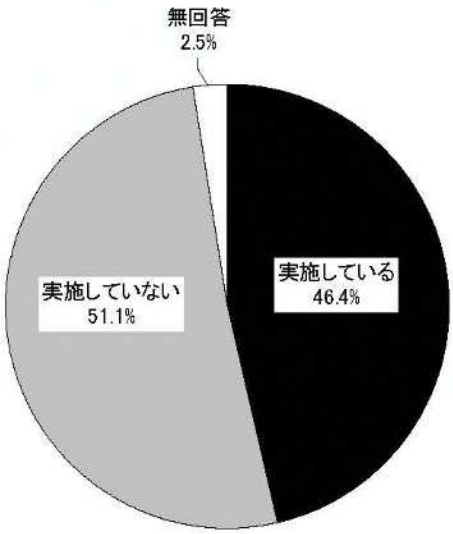


イ．市民のスポーツに対する意識

●スポーツ実施率

市民の半数以上が、運動習慣がありません。

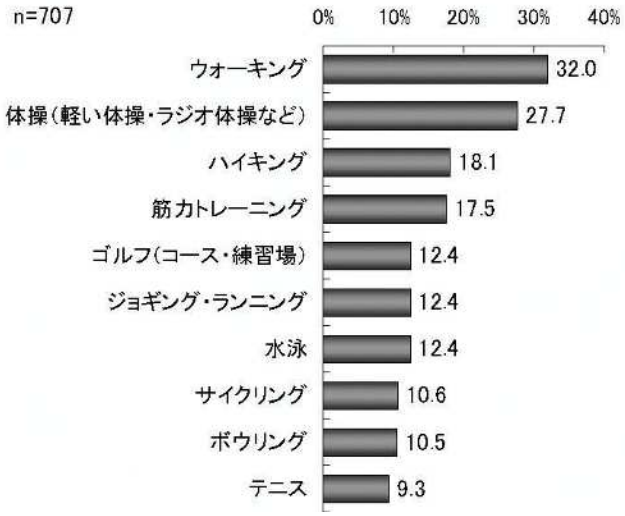
【１回 30 分以上の運動･スポーツを週１日以上実施している人の割合】



●過去１年間に行った運動・スポーツ

ウォーキングがトップ、次いで体操、ハイキングとなっています。

【過去１年間に行った運動・スポーツの割合】



●スポーツの実施回数、実施時間

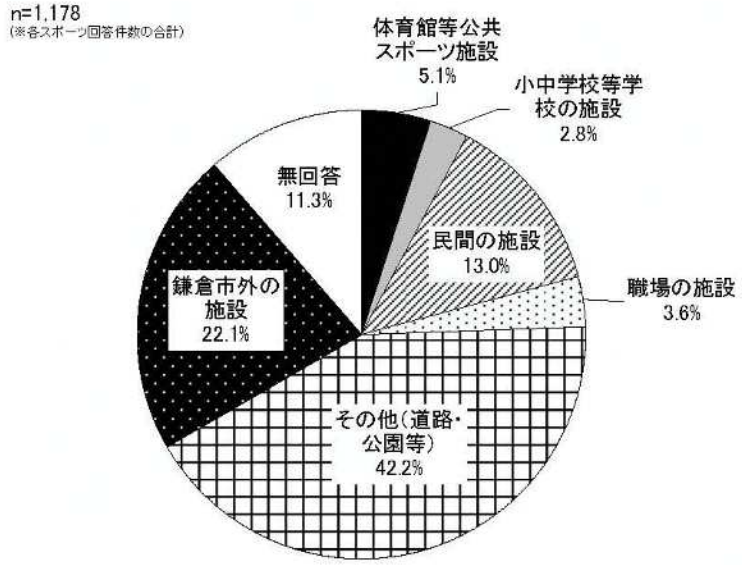
過去１年間に運動･スポーツを行った人について、週あたりの実施回数は、平均で 3.52 回となっています。「体操（軽い体操・ラジオ体操など)」が最も多く、次いで「ウォーキング」「筋力トレーニング」となっています。

運動・スポーツの実施時間は、週あたりの平均で約 247 分（４時間程度）となっています。「ウォーキング」が最も長く、次いで「サイクリング」「テニス」「ゴルフ（コース・練習場)」となっています。

●スポーツを行う際に利用している施設

利用している施設について、全体では「その他（道路・公園等)」(42.2%）が４割を超え最も高くなっています。

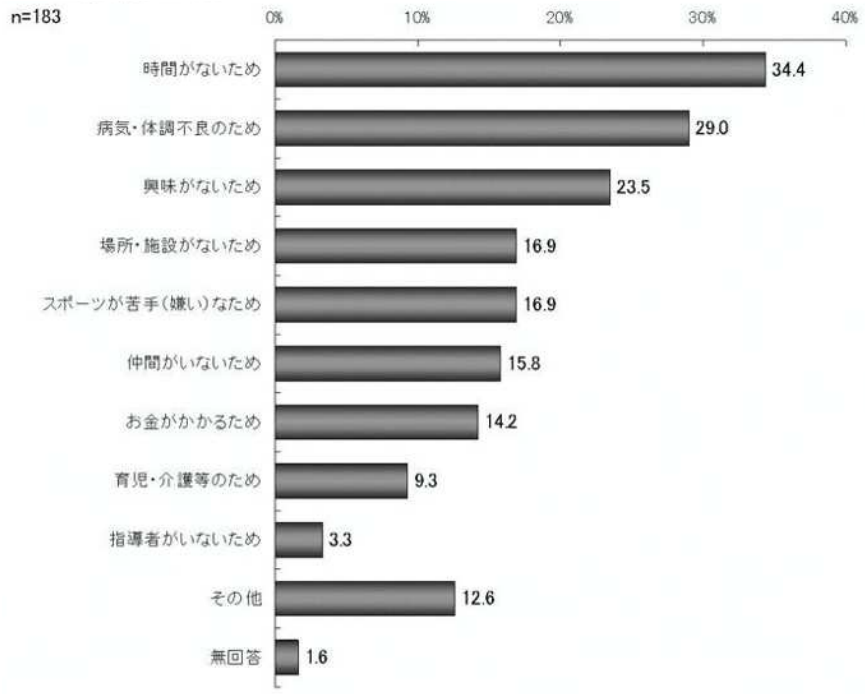
【スポーツを行う際に利用している施設の割合】



●スポーツを行わない理由

「時間がないため」(34.4%) が３割を超え最も高くなっています。次いで、「病気・体調不良のため」(29.0%)、「興味がないため」(23.5%) の順で続いています（「１年間スポーツは行わなかった」と回答した人が回答)。

【スポーツを行わない理由】



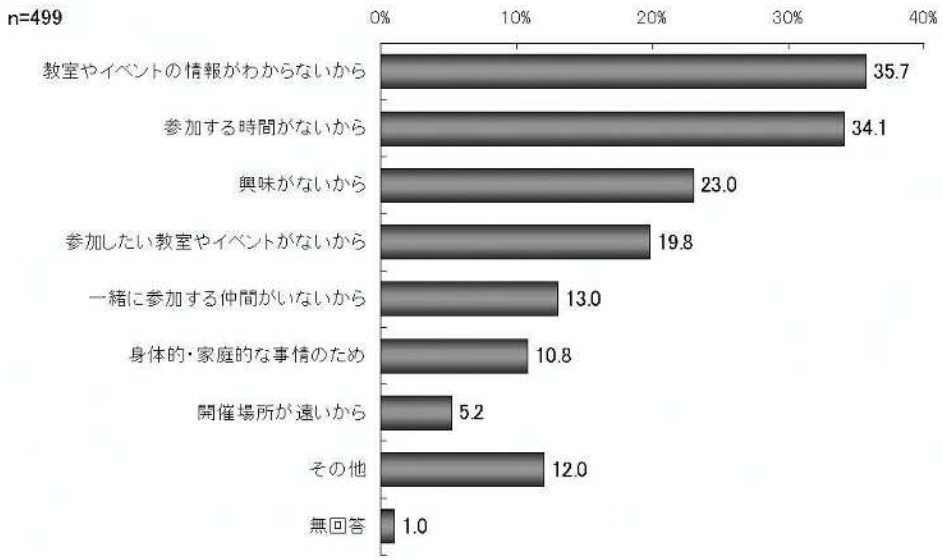
●スポーツ教室やイベントなどへの参加状況

「参加したことがない」が７割（70.6%）を超えます。

●スポーツ教室やイベントなどへ参加しない理由

スポーツ教室やイベントなどへ参加しない理由を聞いたところ、「教室やイベントの情報がわからないから」(35.7%)、「参加する時間がないから」(34.1%)が３割半ばで高くなっています。

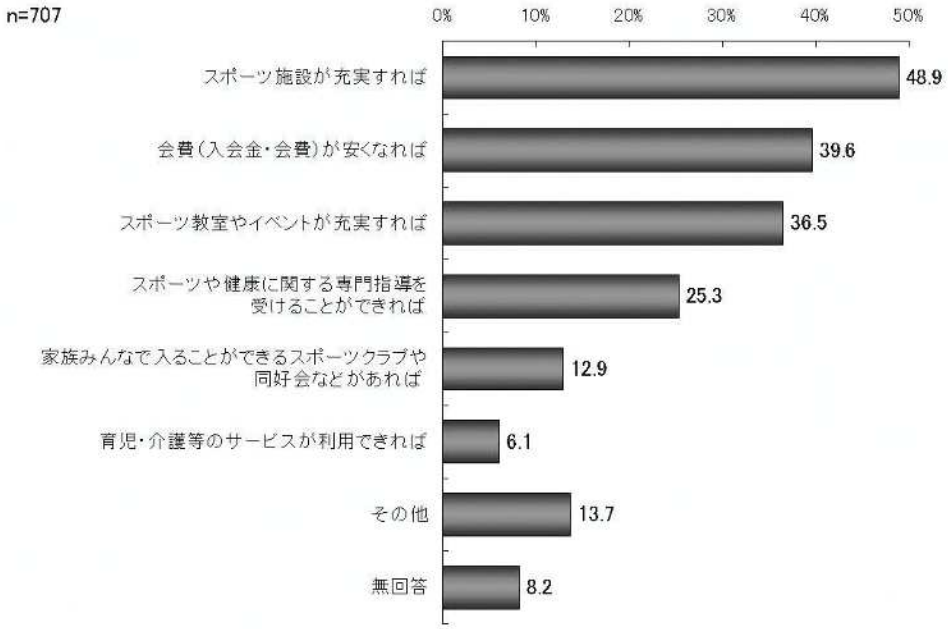
【スポーツ教室やイベントなどへ参加しない理由】



●スポーツに対するこれからのニーズ（必要性）

どのような条件が整えばより一層スポーツを行うようになると思うか聞いたところ、「スポーツ施設が充実すれば」（48.9%）が５割近くで最も高くなっています。

【スポーツに対するこれからのニーズ（必要性）】



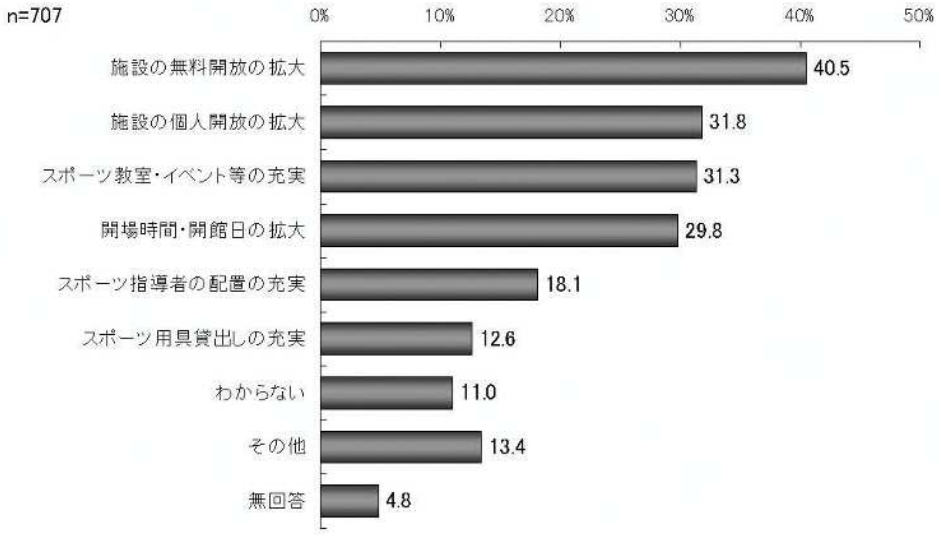
●スポーツ施設の利用

３割以上の方が「利用したことがない」と回答しており、その理由として「機会がない」「時間がない」「興味がない」「家から遠い」などが挙げられています。

●スポーツ施設の利用条件

「施設の無料開放の拡大」（40.5%）がほぼ４割で最も高くなっています。

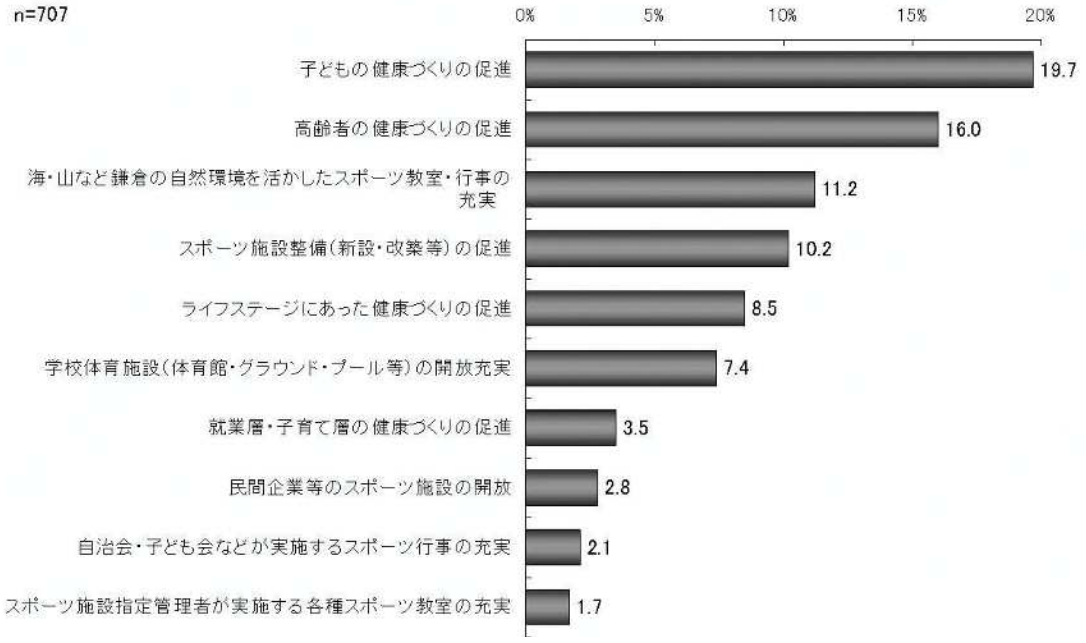
【スポーツ施設をより一層利用するようになるための条件】



●今後のスポーツ施策の推進について

市民のスポーツ活動を推進するために重視すべき施策については、「子どもの健康づくりの促進」（19.7%）が最も高く、次いで「高齢者の健康づくりの促進」（16.0%）となっています。

【今後、重視すべきスポーツ施策】



出典：市民のスポーツ活動に関するアンケート調査（平成 25 年度実施）

（６）現況・課題からコンセプトの具体化や修正土地利用計画（案）の再点検等で求められる内容

項目			現況・課題の概要	コンセプトの具体化や修正土地利用計画（案）再点検で求められる内容
交通	自動車・歩行者交通の地区内及び地区周辺の課題	深沢地区内	・現在の道路計画は、①シンボル道路をはじめとした各種道路における歩行者と自動車の輻輳（ふくそう）のできる限りの排除、②街区間の歩行者動線の確保、交通広場機能の明確化とそれを踏まえた配置、③県道や市道からの自動車の引き込み、④村岡地区とのつながりが課題となっている。	・歩行者が安全で快適に通行できる環境の実現 ・上記に資する自動車交通処理に関するハード・ソフト両面からの対策
		深沢地区周辺	・深沢地区外周道路は、いずれも片側 1 斜線の交互通行であり、広域からの自動車動線としては弱い。 ・深沢地区から藤沢駅方面、鎌倉駅方面へのアクセスは県道藤沢鎌倉（片側 1 車線）のみで手広交差点は混雑が想定される。 ・深沢地区東側は丘陵地帯であり、道路環境はあまり良くない。	・新交通システムの導入などによる深沢地区周辺とのアクセス性の向上 ・周辺道路の混雑緩和に資する自動車交通処理の実現
		深沢地区を含めた広域	・深沢地区周辺の道路は、平日・休日で交通量及び混雑度にほとんど差がない状況。 ・大船・藤沢駅間東海道線新駅西側の都市計画道路横浜藤沢線が完成すれば深沢地区から江ノ島方面へのアクセス性は向上。	
	公共交通の現況・課題	鉄道	・深沢地区で利用できる駅は、湘南モノレールの湘南深沢駅のみでアクセスしにくい。 ・大船・藤沢駅間東海道線新駅が完成すれば、広域からのアクセス性は高まる。	・バス網の再編や新型モビリティの導入の検討
		バス	・地区外周にあるバス停からは、大船駅、鎌倉駅、藤沢駅、江ノ島にアクセス可能。	
防災		津波	・現在想定されている地震モデル以上の地震発生の可能性は低く、河川遡上も含め、事業区域の危険性は非常に低い。	・津波、洪水・浸水、液状化、土砂災害の現況や想定を踏まえた、安心・安全なまちづくりに資するハード・ソフト両面からの対策
		洪水・浸水	・過去に実際に起こった年超過確率 1/100（24 時間で 302ｍｍ）の計画規模の降雨に対して、地区南西の工場・市場施設街区において、50ｃｍ未満の浸水が想定されている。 ・一方、最大規模の想定である年超過確率 1/1000（24 時間で 632ｍｍ）の降雨に対しては、地区全域で 0.5m未満～3mの浸水、地区南西部では 3ｍ～5mの浸水が想定されている。	
		液状化	・平成 23 年度に実施した地質調査等に基づいた液状化判定の結果において、地区南西部でFL＞1 となり『液状化の可能性あり』という判定が出ているが、PL 値は 1.48 となり『液状化危険度が低い』という判定となっている。	
		土砂災害	・事業用地の一部が土砂災害警戒区域に指定されている。ただし、当該箇所は、今後擁壁を整備していく計画である。	

項目		現況・課題の概要	コンセプトの具体化や修正土地利用計画(案)再点検で求められる内容
環境	自然環境	・深沢地区は、御霊神社、等覚寺など緑の骨格に取り囲まれている。 ・深沢地区西側に柏尾川、南側に梶原川が隣接（ただし、梶原川は道路機能強化のためボックス化）。	・深沢地区周辺の生態系や歴史を活かした緑や空間づくり
	歴史資源	・洲崎古戦場碑、泣塔、天満宮など歴史資源がある。泣塔は当地区内にある。	
社会（人口）	鎌倉市・深沢地区	・鎌倉市の人口は既に人口減少の局面に入っており、今後減少していくことが想定される。 ・深沢地域は市全体と比較して、老年人口の割合（31.3%（平成 30 年 9 月））はやや高い。	・深沢地区の新住民と旧住民が住んで良かったと感じられるまちづくり ・来街者にとっても魅力のあるまちづくり ・地域のコミュニティを育てる取組の実施（エリアマネジメントによる公共空間の維持管理、イベントなど）
	藤沢市・村岡地区	・藤沢市の人口は、2020 年から減少すると想定されている。 ・村岡地区は 2045 年までは人口が増加すると想定されるが、老年人口の割合が上昇していく。	
産業	鎌倉市	・平成 21（2009）年と平成 26（2014）年の事業所及び従業者の増減数を比べると、市全体では、事業所数で-325 件、従業者数で-1,967 人と減少傾向。 ・鎌倉市は、京浜臨海部ライフイノベーション国際戦略総合特区、さがみロボット産業特区の中央に位置。 ・鎌倉駅周辺への IT 関連企業の集積やカマコンの取組。	・特区や深沢地区周辺のヘルスケアや医療機能の集積を踏まえた、ヘルスケア産業などの集積 ・鎌倉駅周辺への IT 関連企業との連携や立地
	深沢地区	・深沢地区周辺には、グローバル企業の関係機関や近年機能強化を行う関係機関も立地。 ・湘南アイパークの開所、湘南鎌倉総合病院の先端医療センターの建設、湘南鎌倉医療大学の開学によって、ヘルスケアや医療機能の集積が進む。	
健康・スポーツ	健康	・鎌倉市の平均寿命、健康寿命は、県平均より高く、平均寿命は県内でも上位。 ・高齢者人口の増加に伴って、医療費や介護が必要な高齢者は増加していくと想定される。	・健康寿命の延伸及び平均寿命と健康寿命の差の縮小 ・総合体育館などの新たな施設整備を踏まえた健康・スポーツのソフトの取組などの推進 ・ウォーキングによる健康づくりの促進 ・歩きたくなる空間づくり（ハード）や仕掛けづくり（ソフト）
	スポーツ（施設や市民意識）	・深沢地区に総合体育館（屋内プールを併設）を新設予定。 ・市内の公園は自然的な公園は多いが、都市的な公園は不足。 ・スポーツに対する市民の意識については、市民の半数以上が、運動習慣がないと回答。過去 1 年間に行った運動・スポーツは、ウォーキングがトップ、次いで体操、ハイキング。（市民のスポーツ活動に関するアンケート調査（平成 25 年度実施））	